

米軍基地・・・危機管理能力の欠如 2

現在、沖縄県の米軍基地は普天間にある。行った人にはわかるだろうが、沖縄の真ん中の広大な一等地にある。ここを日本に返却せよ、から話は始まった。代替地をどこにするか。で、辺野古が最適だろうということで決まりかけたのであるが、この海を埋め立てて基地にするつもりがここには数少ないジュゴンが生息している。珊瑚も全滅するだろう。・・・そこで辺野古のある名護市の市長選がおこなわれ推進派の市長が僅差で敗れ、基地移設反対派の市長が当選した。多数決の原理でいえば、米軍は居場所がなくなる。旧社会党はグアムに行け！という。・・・またお得意の国防も国益も何も考えずに適当にしゃべっているだけで、では、米軍がいなくなった時、日本の自衛隊だけで国防が可能なのか？ 予算を削りに削られ、ほしい武器も与えられず、なにを考えての米軍追放なのか？・・・くりかえす、こんな政党をなぜ連立に加えなければいけないのか？

こんなあってもなくてもいい政党より、(ハイチ大地震のときの)消防庁の方がはるかに国家観が確かであり、国家を代表するべく、日本を背負っているように思える。

50年前に沖縄の瀬長亀次郎さんだったかが指摘したように、**米軍**

は沖縄を手放さない。なぜなら軍備の要の地だから。東京・ソウル・マニラに戦闘機でわずか10分・15分で到着する。ましてや、現在台湾海峡がきなくさくなっている。ここを手放すなどという馬鹿な「戦略」はない。米軍がもし手放すとしたら、東アジアから撤退することであり、ただちに自国の西海岸に脅威が現れる。

鳩山総理など「5月までに・・・」（これも危機感のなさをあらわしているのだが）と言明しているが、米軍関係者からみたら怒鳴りつけたい所だろう。5月は言葉のあやであり、本来なら即刻答えをだせ、だろう。ひょっとすると「やっぱりできませんでした。」などと言って政権を投げ捨てるつもりじゃないだろうな。

もうひとつ問題がある。先ほど「僅差」と書いたが、事実上米軍関係の仕事で糊口をしのいでいる人は大勢いるのである。強硬な反米の連中や直接米軍と関係がない仕事の人には反対するのが当然といえば当然なのである。たとえば米軍兵士が事故を起した時などに、犯人を米軍が庇おうとするからみな怒る。またヘリコプターが墮ちるときには、民家を避けるべきなのに、彼らは日本人を人間として認めていないかのように平気でどこにでも落ちる。だから嫌われる。

米国を代表している自覚がない。

2010.02.01.